# 平成25年度　事務事業評価シート

※平成24年度に実施した事業を評価しています

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名称 | 学校給食センター運営管理 | | | | | | | | 継続 |
| コード | 24 | － | 91 | － | 01 | － | 00 | 予算事業名 | 学校給食センター運営管理 |
| 担当部署 | 学校教育部 | | 学校給食課 | | 管理担当 | | | 予算事業コード | 会計 10 款 10 項 07 目 02 |

## 1. 事業の位置付けと関連計画、関連事業等

第三次川越市総合計画上の位置付け（太枠内）　位置付けなしの場合

法令による実施義務：義務ではない

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 基本目標(章) | 2章 | 学びと交流を深め豊かな心と文化をはぐくむまち | 実施計画事業名 | なし |
| 方向性(節) | 2節 | 個性を生かす学校教育の推進 | 個別計画等の名称 | 川越市教育振興基本計画 |
| 施策 | 2 | 教育環境の整備・充実 | | |
| 細施策 | 4 | 学校給食の充実 | 当事業に関連する事務事業 | 学校給食センター施設整備 |
| 事業実施の根拠となる法令・条例等 | 学校給食法 | | | |

## 2. 事業の目的と概要

| | |
|---|---|
| 事業の目的（誰・何を対象に、何のために実施するのか） | 川越市立小・中・特別支援学校の児童生徒を対象に、安全で栄養のバランスのとれた食事を提供し、心身の健全な発達に資する。また、望ましい食習慣を養い、学校における食育の推進を図る。 |
| 事業の概要（活動内容、実施手段・方法など） | 学校給食センターを適切に運営することによって、児童生徒に安全な給食を提供する。また、給食を通じた、食に関する指導の実施や、地場産物の活用を高めるなど、食育の推進に努める。 |

## 3. 実施にかかるコストと実績

（単位:千円）

| | | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 予算額 | | 1,712,384 | 1,751,076 | 1,735,480 | 1,743,864 | 1,736,262 | |
| （25年度予算額大幅増／減の理由） | | | | | | | |
| 事業費 | A | 1,680,172 | 1,709,977 | 1,723,803 | 1,731,493 | 1,736,262 | 1,769,833 |
| 人件費 | B | 1,065,440 | 1,046,725 | 1,046,725 | 1,030,615 | 1,033,846 | 1,033,846 |
| 総コスト（C＝A＋B） | | 2,745,612 | 2,756,702 | 2,770,528 | 2,762,108 | 2,770,108 | 2,803,679 |
| 正規職員（1年間の従事人数） | | 138.10人 | 135.10人 | 135.10人 | 132.80人 | 133.80人 | 133.80人 |
| 臨時職員（1年間の従事人数） | | 46.40人 | 49.33人 | 49.33人 | 50.01人 | 46.36人 | 46.36人 |
| 国県支出金 | D | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他特定財源 | E | 1,277,209 | 1,306,769 | 1,330,457 | 1,327,601 | 1,329,954 | 1,329,954 |
| 市の財政負担（＝C－D－E） | | 1,468,403 | 1,449,933 | 1,440,071 | 1,434,507 | 1,440,154 | 1,473,725 |

※25年度、26年度の事業費、人件費は見込額
※臨時職員の給与も、人件費に含みます。

## 4. 成果指標・活動指標による分析

| | 評価指標 | 単位 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度目標値 | 将来目標値 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成果 | 地場産農産物使用割合 | % | 19.3 | 8.8 | 19.1 | 19.6 | 19.7 | 27年度 | 20.0 |
| | 指標の定義・説明 | | 1年間に使用した食材に占める地場産農産物の使用割合（重量） | | | | | | |
| 活動 | 食指導実施学校数 | 校 | 32 | 32 | 32 | 32 | 32 | 27年度 | 32 |
| | 指標の定義・説明 | | 食指導を実施した小学校数 | | | | | | |
| | | | | | | | | 年度 | |
| | 指標の定義・説明 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 年度 | |
| | 指標の定義・説明 | | | | | | | | |
| 指標に基づく評価 | 学校での食指導については、小学2年生を対象に実施が定着している。地場産農産物の使用割合も徐々に増加してきており、今後も引き続き推進していく必要がある。 | | | | | | | | |

## 5. 事業の実施を通じた分析

(1) 現在の課題と状況　有効性に課題　効率性に課題

有効性では、給食を通じて食育の推進を図るための活動について更に検討していく必要があると考える。また、効率性では、長期的には、民間活用を視野に入れた検討が必要と考える。

(2) 比較参考値（他市での類似事業の例など）

埼玉県内で学校給食センターを設置している自治体は49市町である。（H24．5）

(3) 事業を廃止・縮小したときの影響

学校給食の果たす役割や、小学校100%、中学校99.8%（埼玉県内H24年度が完全給食を実施しているという状況から、廃止、縮小は不可能であると考える。

# 平成25年度事務事業評価　方向性提示シート

| 所管部署 | | | 学校教育部 | | | | 学校給食課 | 管理担当 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名称 | | | 24 | 91 | 01 | 00 | 学校給食センター運営管理 | |
| 今後3年間の方向性 | 25年度 | 改善（見直し） | 学校給食は児童生徒の心身の健全な発達や食育を推進していく上で重要な役割を担っており、引き続きその内容の充実に努める必要がある。安全性や作業効率を高めるため、作業環境の見直しは常時実施していく。食育の推進も具体策を検討していく。（※29年度まで） | | | | | |
| | 26年度 | 継　続 | | | | | | |
| | 27年度 | 継　続 | | | | | | |